

History

キラリを再発見

約600千の大量埋蔵銭が出土

明治35年10月11日、小笠郡朝比奈村横舟の畑で、深さ約35センチの地中から木箱のようなものに入った約600千（約20万枚）の古銭が発見されました。その後、多くの銭貨が散り散りになり、現在は1708枚が残っています。その内935枚は、わらなどの植物繊維のひもに通された状態で保存されていました。

この大量埋蔵銭は、五銖（後漢：24年）から至大通寶（元：1310年）までの中国や朝鮮からの渡来銭を主体とした中世の埋蔵銭です。最新銭の至大通寶は元の銭貨で、その初鑄造年が1319年であることから、14世紀後半から15世紀前半に埋蔵されたと考えられます。静岡県下の大量埋蔵銭としては古い時期に埋蔵されたものの一つであり、最古銭の五銖は静岡県下出土の中世埋蔵銭として、他に検出例がありません。また、「しかみぜに」と呼ばれる鑄造時にゆがんだエラー銭や、流通の過程で小穴を開けたり切り込みを入れたりした銭貨、周縁が削られた磨輪銭も出土しています。

※埋蔵銭の（ ）内は、国名とその貨幣の初鑄造年です。

照会 社会教育課 ☎0548⑥1129



▲横舟西之谷遺跡出土銭

▲五銖（後漢：24年）最古銭



埋蔵文化財包蔵地

横舟西之谷遺跡



緊急時対策所(情報戦略班)の様子



可搬設備(注水ポンプ車)出動の様子

中部電力では9月25日、本店や支店、浜岡原子力発電所から約900人が参加する全社防災訓練が行われました。浜岡原子力発電所では、安全性向上対策工事完了後、4号機が運転している状態で大きな地震が発生し、原子炉が自動停止する想定で訓練が開始されました。

緊急時対策所に参集した災害対策要員約380人は「情報戦略班」「復旧班」などの各機能班に分かれ、中央制御室の運転員と連絡を取り合い、原子炉の状態や放射性物質の放出について情報を収集するとともに、原子力規制庁などへの通報連絡や復旧対策の検討が行われました。また、建屋内の設備が故障しても、原子炉を冷やすための機能を確保するために、可搬型の取水ポンプ車・注水ポンプ車を出動させ、復旧対策の手順が確認されました。

Atomic

暮らしと原子力

防災訓練を実施
復旧対策の手順を確認